

英文学専修

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	開講 セメスター	曜日	講時	頁
英文学概論	Introduction to English Poetry	2	大河内 昌	3	木	1	1
英文学概論	近現代の悲劇文学入門	2	大貫 隆史	4	火	2	2
英文学基礎講読 I	Oscar Wilde, Short Stories	2	大河内 昌	3	金	2	4
英文学基礎講読 II	Reading John Keats' Poetry	2	大河内 昌	4	金	2	5
英文学・英語学基礎講読 I	Modern Ghost Stories	2	TINK JAMES MICHA	3	木	3	6
英文学・英語学基礎講読 II	Elizabeth Gaskell, Cranford: Victorian British Fiction and the Modern World.	2	TINK JAMES MICHA	4	木	3	7
英文学各論	Virginia Woolf, Jacob's Room (1)	2	大河内 昌	5	水	1	9
英文学各論	Virginia Woolf, Jacob's Room (2)	2	大河内 昌	6	水	1	10
英文学各論	小説の人類学	2	武田 将明	集中(5)			11
英語文化論各論	移動と定住のイギリス文化・文学	2	大貫 隆史	5	火	2	13
英語文化論各論	Introduction to Critical Theory	2	大河内 昌	6	木	1	15
英文学講読	John Webster, The Duchess of Malfi and Jacobean Literature.	2	TINK JAMES MICHA	6	月	2	16
英文学演習 I	Jane Austen, Pride and Prejudice (1)	2	大貫 隆史	5	火	3	17
英文学演習 II	Jane Austen, Pride and Prejudice (2)	2	大貫 隆史	6	火	3	18
英文学演習 III	Landscape and Environment in Modern British Poetry Twentieth Century British Poetry of Landscape and Nature.	2	TINK JAMES MICHA	5	月	2	19

科目名：英文学概論／ English Literature (General Lecture)

曜日・講時：前期 木曜日 1 講時

semester：3, 単位数：2

担当教員：大河内 昌 (教授)

講義コード：LB34102, 科目ナンバリング：LHM-LIT203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Introduction to English Poetry

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to English Poetry

3. 授業の目的と概要：

英文学のジャンルの中でも詩は馴染みがうすいかもかもしれません。しかし、詩を読解することによって言葉そのものがもつ不思議さと大きな力を知り、英語という言葉の奥深さに触れることができます。この授業では、ルネサンスから 20 世紀に書かれたイギリスの詩の中から、とても有名で比較的短いものを選んで読解してゆきます。詩はジャンルや約束事が分からないと理解できない作品が多いので、そうした事項を説明しながら詩のテキストを読解してゆきます。詩は読者から近づいて行かないと何も答えてくれませんが、直接詩の原文に触れて積極的に問いかけてゆけば詩はいろいろなことを答えてくれるはずです。

4. 学習の到達目標：

- (1) 英文学史の知識を身につける
- (2) 英語読解力を身につける
- (3) 分析的思考力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) Introduction
- (2) Sonnets in the Renaissance: Shakespeare
- (3) Sonnets in the Renaissance: Sidney & Spenser
- (4) Metaphysical Poets: John Donne
- (5) Metaphysical Poets: George Herbert
- (6) Poems in neo-classicism: Pope & Dryden
- (7) Pre-romantics: Collins & Gray + midterm exam.
- (8) Romantic Poets: William Wordsworth
- (9) Romantic Poets: Keats & Shelley
- (10) Victorian Poets
- (11) Emily Dickinson
- (12) Poetry in the Modern Era: T. S. Eliot
- (13) Poetry in the Modern Era: W. B. Yeats & W. H. Auden
- (14) Poetry in the Modern Era: Some American Poets
- (15) Review and term-end exam

6. 成績評価方法：

中間テスト 50%、 期末テスト 50%

7. 教科書および参考書：

プリントを配布します

8. 授業時間外学習：

予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

9. その他：なし office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学概論／ English Literature (General Lecture)

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：大貫 隆史 (准教授)

講義コード：LB42204, 科目ナンバリング：LHM-LIT203J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

近現代の悲劇文学入門

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Modern Tragic Literature

3. 授業の目的と概要：

「大きな苦しみ」や「死」に出くわすという経験は、ごく個人的なもので、他人がそれを理解することはごく難しいことのようにも思えます。しかし、「悲劇文学」とは、そうした苦しみの経験を、どうにかして共有していこうという試みが為されてきたジャンルのことでもあります。本講義では、英語圏における近代の悲劇文学を、ヨーロッパ近代という視点も手放さずに論じていきます。なお、講義に加え、毎回一名ないしは二名の担当者に短めの発表をしてもらいます。担当者は、該当箇所を日本語に翻訳し、コメントをしてください。

4. 学習の到達目標：

- (1) 近代演劇及び小説の基本的な形式について理解を深める
- (2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
- (3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. レイモンド・ウィリアムズとジョージ・スタイナー (1)
3. レイモンド・ウィリアムズとジョージ・スタイナー (2)

現代にあって「悲劇」は可能なのか？ 甚だしい苦しみや死の経験に、何らかの「かたち (forms)」を与えられる、というのは、一種の欺瞞ではないのか、といったいわば当然の疑問を、ウィリアムズとスタイナーを通して考える。

4. アーサー・ミラーとヘンリック・イブセン (1)
5. アーサー・ミラーとヘンリック・イブセン (2)

何か邪悪なものや戦っているはずの人間が、その当の邪悪なものに、実のところ取り込まれてしまっていた、という苦しみの経験を、レイモンド・ウィリアムズは、「リベラル悲劇」と命名した。これを、ミラーとイブセンの作品を通して考察し、果たして、「リベラル悲劇」が2010年代の現在、アクチュアルな「かたち (form)」たり得ているかどうか考えてゆく。

6. テネシー・ウィリアムズとアウグスト・ストリンドベリ (1)
7. テネシー・ウィリアムズとアウグスト・ストリンドベリ (2)

「家」の中で起きている「私的」な経験のなかにも、「はなはだしい苦しみ」は当然存在している。この見逃されやすい悲劇的経験を、ウィリアムズは「私的悲劇」とカテゴライズした。このアクチュアルな悲劇形式を、二人の劇作家を通して考察する。

8. まとめと中間テスト
9. D・H・ロレンスとトルストイ (1)
10. D・H・ロレンスとトルストイ (2)

「私的悲劇」では、「社会」という観点は強調されにくいのだが、ロレンスやトルストイに見られる「個人的かつ社会的悲劇」というカテゴリーでは、「個人」と「社会」の関係に潜む苦しみの経験こそが問題となる。これを、ロレンスとトルストイの小説を素材に探る。

11. サミュエル・ベケットとベルトルト・ブレヒト (1)
12. サミュエル・ベケットとベルトルト・ブレヒト (2)

これまで見てきた悲劇のフォームは、そのどれもが、「はなはだしい苦しみ」をどうにかして共有し、かつ、その苦しみをもらさず (実は誤って見定められているのだとしても、その) 元凶を変えていこうという意図がそこには込められていた。しかし、ベケット劇では、そうした意図が消えてしまっているようにも見える。この問題を、悲劇そのものの拒絶を意図するブレヒトとあわせて探る。

13. ディスカッション (1)
14. ディスカッション (2)
15. まとめと最終テスト

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・中間及び最終試験 50%

7. 教科書および参考書：

教科書：プリントを配布します。

参考書：Raymond Williams, Modern Tragedy (Broadview, 2006)

8. 授業時間外学習：

授業時間外学習：予習箇所を事前に必ず学習しておくこと

Students are required to read the assigned part before each class.

9. その他：なし

科目名：英文学基礎講読Ⅰ / English Literature (Introductory Reading)Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 2講時

セメスター：3, 単位数：2

担当教員：大河内 昌（教授）

講義コード：LB35207, 科目ナンバリング：LHM-LIT215J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Oscar Wilde, Short Stories

2. Course Title (授業題目)：

Oscar Wilde, Short Stories

3. 授業の目的と概要：

世紀末の唯美主義者で劇作家のオスカー・ワイルドは巧みな短編作家でもありました。この授業では彼の代表的な短編作品を精読します。筋立てや文体を味わうように丁寧に作品を読み進めてゆきます。また、文学テキストを批評的に分析する技法も学びます。授業では毎回担当者を決めて発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。

4. 学習の到達目標：

- (1) 英語で書かれた文学作品を読解する英語力を身につける
- (2) 文学作品を分析する技法を身につける
- (3) 自分の意見を論理的に発表する力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) Introduction
- (2) “The Happy Prince”
- (3) “Lord Arthur Savile’s Crime,” pp. 3-8.
- (4) “Lord Arthur Savile’s Crime,” pp. 9-14.
- (5) “Lord Arthur Savile’s Crime,” pp. 15-21
- (6) “Lord Arthur Savile’s Crime,” pp. 21-26
- (7) “Lord Arthur Savile’s Crime,” pp. 27-32
- (8) “The Sphinx without a Secret”
- (9) “The Canterville Ghost,” pp. 38-43.
- (10) “The Canterville Ghost,” pp. 44-49
- (11) “The Canterville Ghost,” pp. 50-55
- (12) “The Star Child”
- (13) “The Nightingale and the Rose”
- (14) “The Selfish Giant”
- (15) Review and exam

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%

7. 教科書および参考書：

Oscar Wilde, The Complete Short Stories (Oxford World’s Classics, 2010)

8. 授業時間外学習：

予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

9. その他：なし office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学基礎講読Ⅱ／ English Literature (Introductory Reading)Ⅱ

曜日・講時：後期 金曜日 2講時

semester：4, 単位数：2

担当教員：大河内 昌（教授）

講義コード：LB45204, 科目ナンバリング：LHM-LIT216J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Reading John Keats' Poetry

2. Course Title (授業題目)：

Reading John Keats' Poetry

3. 授業の目的と概要：

イギリス・ロマン主義の詩人ジョン・キーツは、抒情的なオードや物語詩で知られています。この授業では、キーツの詩作品から、有名なオードと物語詩をいくつか読んでゆきます。同時に、詩の読解に必要な韻律や形式も学びます。緻密に書かれた英語を分析的に精読してゆく醍醐味を味わいましょう。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。

4. 学習の到達目標：

- (1) 英語で書かれた文学作品を読解する英語力を身につける
- (2) 文学作品を分析する技法を身につける
- (3) 自分の意見を論理的に発表する力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) "The Eve of St. Agnes," stanzas 1-9.
- (2) "The Eve of St. Agnes," stanzas 10-18.
- (3) "The Eve of St. Agnes," stanzas 19-27
- (4) "The Eve of St. Agnes," stanzas 28-42.
- (5) "Isabella," stanzas 1-9.
- (6) "Isabella," stanzas 10-18.
- (7) "Isabella," stanzas 19-27.
- (8) "Isabella," stanzas 28-36.
- (9) "Isabella," stanzas 37-45.
- (10) "Isabella," stanzas 46-54.
- (11) "Isabella," stanzas 55-62.
- (12) "Ode to a Nightingale"
- (13) "Ode to a Grecian Urn"
- (14) "To Autumn"
- (15) Review and exam

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%

7. 教科書および参考書：

John Keats, Selected Poetry (Oxford World's Classics, 2008)

8. 授業時間外学習：

予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

9. その他：なし office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学・英語学基礎講読Ⅰ／ English Literature and Linguistics (Introductory Reading)Ⅰ

曜日・講時：前期 木曜日 3講時

Semester：3, 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA (准教授)

講義コード：LB34301, 科目ナンバリング：LHM-LIT217E, 使用言語：英語

1. 授業題目：

Modern Ghost Stories

2. Course Title (授業題目)：

Modern Ghost Stories

3. 授業の目的と概要：

In this course, we will read a selection of short stories in English about ghosts and the supernatural from the nineteenth century to the present day. Ghost stories have been among the most popular types of short story in modern British and American literature; we will read some famous examples during the course and use the classes to explore a number of relevant themes to help better understand them. Topics for discussion include: the history of supernatural beliefs in western literature; literary conventions of the short story; ideas of science, psychology and the paranormal in modernity; psychoanalysis, gender and theories of literary interpretation; and modern philosophy. Students should be able to practice reading skills in English and learn about approaches to modern literary studies.

4. 学習の到達目標：

Goals of course are:(1) to read a short story in English each week in advance of the class; (2) To listen to a short mini-lecture each week on the reading and a related topic; (3) To discuss questions on the topic each week in small groups; (4) To write at least two short written assignments in English during the course; (5) To develop subject knowledge in modern English literature.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1: Introduction to Ghosts in English Literature
- 2: Elizabeth Gaskell, "The Old Nurse's Tale"
- 3: Fitz James O'Brien, "What Was It?"
- 4: Edward Bulwer Lytton, "The Haunted and the Haunters"
- 5: Mary Elizabeth Brandon, "The Cold Embrace"
- 6: Charles Dickens, "The Signalman"
- 7: Sheridan Le Fanu, "Green Tea"
- 8: Rudyard Kipling, "At the End of the Passage."
- 9: W.W. Jacobs, "The Monkey's Paw."
- 10: M.R. James, "O, Whistle, and I'll Come to You, My Lad."
- 11: Ambrose Bierce, "The Moonlit Road"
- 12: Elizabeth Bowen, "The Demon Lover"
- 13: Neil Gaiman, "Troll Bridge"
- 14: China Mielville, "Entry Taken from a Medical Encyclopedia"
- 15: Exam

6. 成績評価方法：

Essay one 25%; Mid-term test 25%; Essay two 25%; Final exam 25%

7. 教科書および参考書：

Michael Newton, editor. The Penguin Book of Ghost Stories: From Elizabeth Gaskell to Ambrose Bierce (Penguin, 2010).

8. 授業時間外学習：

Regular small group discussion exercises each week. Two short written assignments; one reading comprehension and vocabulary test; one final exam on the course content.

9. その他：なし

科目名：英文学・英語学基礎講読Ⅱ／ English Literature and Linguistics (Introductory Reading)II

曜日・講時：後期 木曜日 3講時

Semester：4, 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA (准教授)

講義コード：LB44301, 科目ナンバリング：LHM-LIT218E, 使用言語：英語

1. 授業題目：

Elizabeth Gaskell, Cranford: Victorian British Fiction and the Modern World.

2. Course Title (授業題目)：

Elizabeth Gaskell, Cranford: Victorian British Fiction and the Modern World.

3. 授業の目的と概要：

In this course, we will read a short novel by Elizabeth Gaskell, Cranford. Originally published in 1853, the popular English novel is a mostly comic description of the life of a group of women in a small English town, yet it also introduces several aspects of the transformation of nineteenth century (or, in other words, Victorian) Britain: the growth of a modern economy, industrialization, the spread of the railways, and globalization under Empire. In the semester, we will read the book in installments each week, and use the class to learn about particular topics of Victorian literature and culture, including gender issues, social history, and technology. We will also consider some contemporary TV adaptations of the novel to think about the reception of Victorian fiction and historical drama in the context of international popular culture. Students will be expected to participate in group discussion exercises each week as part of the class.

4. 学習の到達目標：

1: To read a short novel in English over the course of the semester 2: To introduce topics about nineteenth century British history and culture 3: To develop skills of reading comprehension and literary analysis in English 4: To practice group discussion and problem solving through weekly class exercises 5: To encourage intercultural studies of ideas of national heritage and nineteenth century history.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1: Introduction

2: Chapter I “Our Society”

3: Chapter II “The Captain”

4: Chapter III “A Love Affair of Long Ago”

5: Chapter IV “A Visit to an Old Bachelor”

6: Chapter V “Old Letters” & Chapter VI “Poor Peter”

7: Chapter VII “Visiting” & Chapter VIII “Your Ladyship”

8: Chapter IX “Signor Brunoni” [mid-semester test]

9: Chapter X “Panic” & Chapter XI “Samuel Brown”

10: Chapter XII “Engaged to be Married”

11: Chapter XIII “Stopped Payment”

12: Chapter XIV “Friends in Need”

13: Chapter XV “A Happy Return”

14: Chapter XVI “Peace to Cranford” & Conclusion

15: Final Exam

6. 成績評価方法：

Two written assignments (50%) mid-term test (20%) Final exam (25%) Attendance (5%)

7. 教科書および参考書：

Elizabeth Gaskell, Cranford., edited by Patricia Ingham (Penguin 2005).

8. 授業時間外学習：

Two take-away writing assignments, a mid-term test, and a final exam.

9. その他：なし This class will be conducted in English.

科目名：英文学各論／ English Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期 水曜日 1 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：大河内 昌（教授）

講義コード：LB53101, 科目ナンバリング：LHM-LIT304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Virginia Woolf, Jacob' s Room (1)

2. Course Title (授業題目)：

Virginia Woolf, Jacob' s Room (1)

3. 授業の目的と概要：

イギリス・モダニズムの女性小説家ヴァージニア・ウルフの『ジェイコブの部屋』の原書を精読します。ウルフは実験的な技法で知られ、この作品も複数の人物の意識をとおして一人の若者の生と死を描くという、実験的な技法が用いられています。英語は難解ですが、詩的な雰囲気をもっており、この作品を読むことは大きな知的満足を与えてくれるでしょう。前期は作品の前半部分を読みます。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。

4. 学習の到達目標：

- (1) 英語で書かれた文学作品を読解する英語力を身につける
- (2) 文学作品を分析する技法を身につける
- (3) 自分の意見を論理的に発表する力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) Introduction
- (2) Jacob' s Room, pp. 1-10.
- (3) Jacob' s Room, pp. 11-20.
- (4) Jacob' s Room, pp. 21-30.
- (5) Jacob' s Room, pp. 31-40.
- (6) Jacob' s Room, pp. 41-50.
- (7) Jacob' s Room, pp. 51-60.
- (8) Jacob' s Room, pp. 61-69.
- (9) Jacob' s Room, pp. 70-78.
- (10) Jacob' s Room, pp. 79-87.
- (11) Jacob' s Room, pp. 88-95.
- (12) Jacob' s Room, pp. 95-105.
- (13) Jacob' s Room, pp. 105-111.
- (14) Jacob' s Room, pp. 111-120.
- (15) Review and exam

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%

7. 教科書および参考書：

Virginia Woolf, Jacob' s Room (Oxford World' s Classics, 2008).

8. 授業時間外学習：

予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

9. その他：なし office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学各論／ English Literature (Special Lecture)

曜日・講時：後期 水曜日 1 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：大河内 昌（教授）

講義コード：LB63101, 科目ナンバリング：LHM-LIT304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Virginia Woolf, Jacob' s Room (2)

2. Course Title (授業題目)：

Virginia Woolf, Jacob' s Room (2)

3. 授業の目的と概要：

イギリス・モダニズムの女性小説家ヴァージニア・ウルフの『ジェイコブの部屋』の原書を精読します。ウルフは実験的な技法で知られ、この作品も複数の人物の意識をとおして一人の若者の生と死を描くという、実験的な技法が用いられています。英語は難解ですが、詩的な雰囲気をもっており、この作品を読むことは大きな知的満足を与えてくれるでしょう。後期は作品の後半部分を読みます。授業では毎回担当者を決めて、発表してもらい、その発表を起点に全員でディスカッションをします。

4. 学習の到達目標：

- (1) 英語で書かれた文学作品を読解する英語力を身につける
- (2) 文学作品を分析する技法を身につける
- (3) 自分の意見を論理的に発表する力を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) Introduction
- (2) Jacob' s Room, pp. 121-130.
- (3) Jacob' s Room, pp. 131-140.
- (4) Jacob' s Room, pp. 141-150.
- (5) Jacob' s Room, pp. 151-160.
- (6) Jacob' s Room, pp. 161-170.
- (7) Jacob' s Room, pp. 171-180.
- (8) Jacob' s Room, pp. 181-190.
- (9) Jacob' s Room, pp. 190-200.
- (10) Jacob' s Room, pp. 2001-210.
- (11) Jacob' s Room, pp. 211-220.
- (12) Jacob' s Room, pp. 221-230.
- (13) Jacob' s Room, pp. 231-240.
- (14) Jacob' s Room, pp. 241-247.
- (15) Review and exam

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・試験 50%

7. 教科書および参考書：

Virginia Woolf, Jacob' s Room (Oxford World' s Classics, 2008).

8. 授業時間外学習：

予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

9. その他：なし office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学各論／ English Literature (Special Lecture)

曜日・講時：前期集中 その他 連講

セメスター：集中(5), 単位数：2

担当教員：武田 将明 (非常勤講師)

講義コード：LB98811, 科目ナンバリング：LHM-LIT304J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

小説の人類学

2. Course Title (授業題目)：

Anthropology and the Novel

3. 授業の目的と概要：

「小説の人類学」をテーマに講義する(一部は演習)。20世紀以降、いわゆる文明と野蛮の境界を疑い、西洋文明を相対化してきた人類学は、思想・文学・批評に大きな影響をあたえてきた。近年、人類学は思想的にさらなる深まりを見せ、自己と他者との境界、人間と他の生物との境界や、事実とフィクションとの境界についても、根源的に問い直している。こうした知見を応用し、近代以降のイギリス文学(主に小説)を読み直すことで、近代イギリス小説の伝統的な枠組みを相対化し、イギリス文学・文化への新鮮な見方を提供したい。これはポストコロニアル批評以降の新しい文学理論の探究にも役立つはずである。

4回の講義と1回の演習の組み合わせを3回実施する。それぞれのテーマは、1. 文明と野蛮、2. 人間と動物、3. 本物と贋物に分かれているが、実際にはどれも相互に関係している。講義はプリントを配布して進める。プリントから事前に指定された文章を読んで授業に参加すること。特に英文の引用については、自分で単語などを調べておくことが必要。

4. 学習の到達目標：

本授業を通じて、受講生が英語で文学作品を愉しむためのコツをつかみ、いま文学を教える意義について考えるための基礎を築くこと。

5. 授業の内容・方法と進度予定：

第1回：講義：文明と野蛮—George Psalmanazar, Description of Formosa

第2回：講義：文明と野蛮—Daniel Defoe, Robinson Crusoe (前半)

第3回：講義：文明と野蛮—Daniel Defoe, Robinson Crusoe (後半)

第4回：講義：文明と野蛮—Aphra Behn, Oroonoko

第5回：演習：Robinson Crusoeを読む

第6回：講義：人間と動物—Mary Shelley, Frankenstein

第7回：講義：人間と動物—H. G. Wells, The Island of Doctor Moreau

第8回：講義：人間と動物—Jonathan Swift, Gulliver's Travels (前半)

第9回：講義：人間と動物—Jonathan Swift, Gulliver's Travels (後半)

第10回：演習：The Island of Doctor Moreauを読む

第11回：講義：本物と贋物—J. M. Coetzee, Elizabeth Costello

第12回：講義：本物と贋物—Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go

第13回：講義：本物と贋物—Samuel Butler, Erewhon

第14回：講義：本物と贋物—Samuel Johnson, Rasselas

第15回：演習：Never Let Me Goを読む

第5、10、15回には、学生が下記の作品を読んだことを前提に日本語でディスカッションを行う。ディスカッションのテーマは授業のはじめに示すので、各自答えを準備して参加すること。また、授業に参加しながら下記の作品をすべて読むのは困難なので、事前に読んでおくことを強く勧める。

第5回：Daniel Defoe, Robinson Crusoe.

第10回：H. G. Wells, The Island of Doctor Moreau.

第15回：Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go.

予習の際、日本語訳を参考にしても構わないが、必ず原文も参照し、上記の回の授業に持参すること(使用テキストについては下記参照)。なお、『ロビンソン・クルーソー』には、講師による翻訳(河出文庫)がある。

6. 成績評価方法：

ディスカッションでの貢献度(30%)、講義の受講態度(リアクションペーパーなどで理解度を確認することもある：30%)、最終レポート(日本語4000字、英語1000 words程度：40%)

7. 教科書および参考書：

次の3冊は授業で使用するので入手しておくこと。

(1) Daniel Defoe, Robinson Crusoe. Ed. Thomas Keymer and James Kelly. Oxford World's Classics, 2007.

(2) H. G. Wells, The Island of Doctor Moreau. Ed. Darryl Jones. Oxford World's Classics, 2017.

(3) Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go

8. 授業時間外学習：

上述のとおり、Robinson Crusoe, The Island of Doctor Moreau, Never Let Me Goを授業開始前に通読すること。通読に使用するのは翻訳でも構わない。

授業のはじめに、上記の3冊に関するディスカッションのトピックを伝えるので、ディスカッションの回までに答えを考えてくること。

毎回、プリントの指定の範囲までを読んでくること。英文の引用については、自分で単語などを調べておくこと。

9. その他：なし

科目名：英語文化論各論／ English Culture (Special Lecture)

曜日・講時：前期 火曜日 2講時

semester：5, 単位数：2

担当教員：大貫 隆史 (准教授)

講義コード：LB52204, 科目ナンバリング：LHM-LIT305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

移動と定住のイギリス文化・文学

2. Course Title (授業題目)：

Mobility and Settlement in the Modern British Culture / Literature

3. 授業の目的と概要：

「モビリティ」つまり「動くことができる性質」は、現在、この上なく重要なものと見なされているのかもしれませんが。社会的に様々なポジションに「動くことができる」こと、あるいは、地理的に様々な場所に「動くことができる」ことは、少なくとも、「公式的」には、いまや必須の能力とすら言えるのかもしれませんが。しかし、近代のイギリス文化・文学をふり返ってみると、この「モビリティ」すなわち「可動性」には、一面的とは到底言えない、ごく複雑な価値付けが為されてきたことが分かります。本講義では、産業革命以降のイギリス文化・文学を探りながら、この問題を考えていきます。なお、講義に加え、毎回一名ないしは二名の担当者に短めの発表をしてもらいます。担当者は、該当箇所を日本語に翻訳し、コメントをしてください。

4. 学習の到達目標：

- (1) 小説の基本的な形式について理解を深める
- (2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
- (3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. ロンドンの「モビリティ」—ディケンズ『ドーンビー父子』(1)
3. ロンドンの「モビリティ」—ディケンズ『ドーンビー父子』(2)

産業化にともなう都市の変容は、『田舎と都会』のレイモンド・ウィリアムズが言うように、ロンドンのような古くからの都市と、マンチェスターのような新興の都市とでは、その様相をかなり異にする。こうした違いを、「モビリティ (移動する力)」という観点から、また、小説家チャールズ・ディケンズ (1812-70) の小説『ドーンビー父子』を主たる対象に考察し、近代的な「モビリティ」のシンボルとも言える「鉄道」によって、いかなる「かたち」が私たちの「意識」に、いわば「ねじ込ま」れてきたのか、そのプロセスを考えてゆく。

4. 産業革命と「モビリティ」----コベット『農村騎行』(1)
5. 産業革命と「モビリティ」----コベット『農村騎行』(2)

産業革命がもたらした「農村」の変容を、文筆家で政治活動家のウィリアム・コベット (1763 - 1835) はいかに記述したのだろうか？ コベット自身は「モバイル (移動可能な)」存在である一方、産業化のプロセスに苦しむ人々そうした「モビリティ (移動する力)」を欠く存在として記述されてしまったのだろうか？ こうした問題を、小説家のジェイン・オースティンなど同時代の書き手たちも視野に入れながら考察する。

6. 教育と「モビリティ」—ハーディ『帰郷』(1)
7. 教育と「モビリティ」—ハーディ『帰郷』(2)

「モビリティ (移動する力)」を教育によって得てしまった人間は、生まれ故郷の人々と、いかなる関係を結びうるのだろうか？ かりに結びうるとして、それはどのような関係になるのだろうか？ 小説家トマス・ハーディ (1840-1928) の『帰郷』を主たる対象としながら、「突出する人間」と「普通の人々」との関係を、「モビリティ」をキーワードとしながら考察する。

8. まとめと中間テスト
9. 「モビリティ」の悲劇—アラン・ルイス『オレンジ園』(1)
10. 「モビリティ」の悲劇—アラン・ルイス『オレンジ園』(2)

「モビリティ (移動する力)」を得てしまったことで、「普通の人々」とうまく関係を結べなくなってしまう—こうした感情のあり方は、二十世紀に入ると、悲劇的な色合いを濃くしてゆく。単に関係を結べないだけではなく、「普通の人々」のもつ歴史的とも言える力によって、「モバイル」な人間が破壊されてしまう、といったような、かなり問題含みの感情構造が形成されてくるのだが、この問題をウェールズ生まれの詩人で短編小説家のアラン・ルイス (1915-44) の作品に探る。

11. 「定住者」の「モビリティ」—レイモンド・ウィリアムズ『辺境』(1)
12. 「定住者」の「モビリティ」—レイモンド・ウィリアムズ『辺境』(2)

「突出する人間」と「普通の人々」のあいだの悲劇的とも形容しうる分離の問題は、小説家で文化の理論家としても広く知られるレイモンド・ウィリアムズ (1921-1988) の小説「辺境」によって、ひとつの解決策を見ることになる。この小説で彼が記述しようとした「定住者」の「モビリティ」をめぐるごく複雑な問題を、同時期の文学や思想などとの比較を行いながら、じっくりと探ってゆく。

13. ディスカッション (1)

14. ディスカッション (2)

15. まとめと最終テスト

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・中間及び最終テスト 50%

7. 教科書および参考書：

教科書：プリントを配布します。

参考書：Raymond Williams, *The Country and the City* (Vintage 2016)

大貫隆史『「わたしのソーシャリズム」 ―二〇世紀イギリス文化とレイモンド・ウィリアムズ』(研究社 2016)

8. 授業時間外学習：

予習箇所を事前に必ず学習してくること

Students are required to read the assigned part before each class.

9. その他：なし

科目名：英語文化論各論／ English Culture (Special Lecture)

曜日・講時：後期 木曜日 1 講時

semester：6, 単位数：2

担当教員：大河内 昌（教授）

講義コード：LB64101, 科目ナンバリング：LHM-LIT305J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Introduction to Critical Theory

2. Course Title (授業題目)：

Introduction to Critical Theory

3. 授業の目的と概要：

この授業では文学研究の方法論としての文学理論の概略を学びます。文学理論には多様な流派がありますが、この授業ではあらゆる理論の基本となる構造主義、ポスト構造主義、マルクス主義に焦点を当てながら、批評理論の基本的な概念とキーワードを学んでゆきます。方法論のない作品分析はたんなる感想文になる危険があります。作品を理詰めに分析する方法を学んでほしいと考えています。

4. 学習の到達目標：

- (1) 批評理論の基礎知識を身につける
- (2) 分析的な思考力を身につける
- (3) 文学作品を分析する方法を身につける

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- (1) Introduction
- (2) Literary Studies and Cultural Studies
- (3) Structuralism: basic ideas
- (4) Structuralism: as literary criticism
- (5) Russian Formalism
- (6) Narratology
- (7) Deconstruction: Jacques Derrida
- (8) Deconstruction: Yale Critics
- (9) Michel Foucault and Power
- (10) Michel Foucault and Sexuality
- (11) Psychoanalytic Criticism: Freud
- (12) Psychoanalytic Criticism: Lacan & Kristeva
- (13) Marxism: basic ideas
- (14) Marxism: Fredric Jameson
- (15) Review and Exam

6. 成績評価方法：

授業参加 20%・試験 80%

7. 教科書および参考書：

プリントを配布します。

8. 授業時間外学習：

予習段階でかならず教材にあらかじめ目を通しておくこと。

9. その他：なし office hour: Tuesday 15:00-16:30 and by appointment.

科目名：英文学講読／ English Literature (Reading)

曜日・講時：後期 月曜日 2講時

Semester：6, 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA (准教授)

講義コード：LB61202, 科目ナンバリング：LHM-LIT319E, 使用言語：英語

1. 授業題目：

John Webster, The Duchess of Malfi and Jacobean Literature.

2. Course Title (授業題目)：

John Webster, The Duchess of Malfi and Jacobean Literature.

3. 授業の目的と概要：

Jacobean drama—that is drama written during the reign of King James I of England (1603-1625)-includes some of the most popular and controversial writing in English literature. These plays are famous for exploring themes of desire, revenge, jealousy and political corruption in frequently striking language and powerfully dramatic scenes. In this course, we will read one of the best-known plays of the period: John Webster's tragedy, The Duchess of Malfi (1618), which is about the struggle and persecution of a powerful woman. The class will consider the historical and cultural contexts of the drama, which will include some notable poems of the period.

4. 学習の到達目標：

1: To read a play in the original English; 2: To introduce subject knowledge on seventeenth-century English literature; 3: To practice discussion skills in English through weekly class exercises and a group presentation assignment; 4: To develop, listening comprehension skills by analyzing a DVD version of the drama; 5: To improve writing skills in English.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1: Introduction to Jacobean drama

2: Introducing Jacobean Literature: Ben Jonson [group work]

3: Introducing Jacobean Literature: John Donne [group work]

5: John Webster, The Duchess of Malfi (act one) [listening/reading comprehension]

6: The Duchess of Malfi (act one) [pair work]

7: The Duchess of Malfi (act two) [group discussion]

8: The Duchess of Malfi (act two) [mid-term test]

9: The Duchess of Malfi (act three) [listening/reading comprehension]

10: The Duchess of Malfi (act three) [pair work]

11: The Duchess of Malfi (act four) [listening/reading comprehension]

12: The Duchess of Malfi (act five) [listening/reading comprehension]

13: The Duchess of Malfi (act five) [group discussion]

14: The Duchess of Malfi and Japan [pair work]

15: Conclusion and final exam.

6. 成績評価方法：

One mid-term test (25%); One final exam (25%); Two written assignments (50%)

7. 教科書および参考書：

John Webster, The Duchess of Malfi, edited by Leah S. Marcus. (Bloomsbury, 2009)

8. 授業時間外学習：

Two written assignments, a mid-term test and a final exam (all in English).

9. その他：なし

科目名：英文学演習 I / English Literature (Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：5, 単位数：2

担当教員：大貫 隆史 (准教授)

講義コード：LB52306, 科目ナンバリング：LHM-LIT320J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Jane Austen, *Pride and Prejudice* (1)

2. Course Title (授業題目)：

Jane Austen, *Pride and Prejudice* (1)

3. 授業の目的と概要：

ジェイン・オーステン『高慢と偏見』を読んでいます。『高慢と偏見』は、様々な翻案作品が作り出されている有名な作品で、読み物としてもとても面白いものですが、それと同時に、「結婚」や「土地所有制度」さらには「産業革命」という、じつは私たちにとってごく身近な問題を扱った小説でもあります。本演習では、毎回担当者を決めて、該当箇所の日本語翻訳とコメントを提供してもらいます。

4. 学習の到達目標：

- (1) 小説の基本的な形式について理解を深める
- (2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
- (3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODクシヨン
2. *Pride and Prejudice*, pp. 1-16
3. *Pride and Prejudice*, pp. 17-33
4. *Pride and Prejudice* pp. 34-50
5. *Pride and Prejudice*, pp. 51-67
6. *Pride and Prejudice*, pp. 68-84
7. *Pride and Prejudice*, pp. 85-101
8. まとめと中間試験
9. *Pride and Prejudice*, pp. 102-118
10. *Pride and Prejudice*, pp. 119-135
11. *Pride and Prejudice*, pp. 136-152
12. *Pride and Prejudice*, pp. 153-169
13. *Pride and Prejudice*, pp. 170-186
14. ディスカッション
15. まとめと最終試験

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・中間及び最終試験 50%

7. 教科書および参考書：

Jane Austen, *Pride and Prejudice* (Penguin, 2003)

8. 授業時間外学習：

予習箇所を事前に必ず学習してくるこト

Students are required to read the assigned part before each class.

9. その他：なし

科目名：英文学演習Ⅱ／ English Literature (Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 火曜日 3講時

セメスター：6, 単位数：2

担当教員：大貫 隆史 (准教授)

講義コード：LB62303, 科目ナンバリング：LHM-LIT321J, 使用言語：日本語

1. 授業題目：

Jane Austen, *Pride and Prejudice* (2)

2. Course Title (授業題目)：

Jane Austen, *Pride and Prejudice* (2)

3. 授業の目的と概要：

ジェイン・オーステン『高慢と偏見』を読んでいます。『高慢と偏見』は、様々な翻案作品が作り出されている有名な作品で、読み物としてもとても面白いものですが、それと同時に、「結婚」や「土地所有制度」さらには「産業革命」という、じつは私たちにとってごく身近な問題を扱った小説でもあります。本演習では、毎回担当者を決めて、該当箇所の日本語翻訳とコメントを提供してもらいます。

4. 学習の到達目標：

- (1) 小説の基本的な形式について理解を深める
- (2) コミュニケーションとしての文学という観点への理解を深める
- (3) 英語の原書を読解できる英語能力を涵養する

5. 授業の内容・方法と進度予定：

1. インTRODクシヨN
2. *Pride and Prejudice*, pp. 187-203
3. *Pride and Prejudice*, pp. 204-220
4. *Pride and Prejudice* pp. 221-237
5. *Pride and Prejudice*, pp. 238-254
6. *Pride and Prejudice*, pp. 255-271
7. *Pride and Prejudice*, pp. 272-288
8. まとめと中間試験
9. *Pride and Prejudice*, pp. 289-305
10. *Pride and Prejudice*, pp. 306-322
11. *Pride and Prejudice*, pp. 323-339
12. *Pride and Prejudice*, pp. 340-356
13. *Pride and Prejudice*, pp. 357-367
14. ディスカッション
15. まとめと最終試験

6. 成績評価方法：

発表と授業参加 50%・中間及び最終試験 50%

7. 教科書および参考書：

Jane Austen, *Pride and Prejudice* (Penguin, 2003)

8. 授業時間外学習：

予習箇所を事前に必ず学習してくること

Students are required to read the assigned part before each class.

9. その他：なし

科目名：英文学演習Ⅲ／ English Literature (Seminar)Ⅲ

曜日・講時：前期 月曜日 2講時

Semester：5, 単位数：2

担当教員：TINK JAMES MICHA (准教授)

講義コード：LB51207, 科目ナンバリング：LHM-LIT322E, 使用言語：英語

1. 授業題目：

Landscape and Environment in Modern British Poetry
Twentieth Century British Poetry of Landscape and Nature.

2. Course Title (授業題目)：

Twentieth Century British Poetry of Landscape and Nature.

3. 授業の目的と概要：

In this class we will read examples of twentieth century British and Northern Irish poetry that describe the landscape, nature, and the spaces people live in. Therefore we will examine how poetry explores ideas of geography and habitat in the changing conditions of modernity. We will consider the representation of the natural environment (i.e. the wilderness, the rural, encounters with wild animals, and modern forms of so-called pastoral) and also of the urban, suburban and industrial spaces (including work, leisure, and transport). The course is intended to introduce students to reading short poems in English for pleasure, and considering historical and critical approaches to modern literature.

4. 学習の到達目標：

1: To read and analyze poetry in English by reading at least one poem for class each week; 2: To acquire subject knowledge in modern literary and cultural studies; 3: To explore and reflect on the intercultural aspects of landscape and the environment as part of the course material; 4: To practice discussion skills in English through weekly class activities; 5: To develop and improve academic writing skills in English.

5. 授業の内容・方法と進度予定：

- 1: Introduction to environment and poetry: William Wordsworth.
- 2: The Start of the Twentieth Century: Thomas Hardy, “The Darkling Thrush”, “Channel Firing.” [discussion exercises]
- 3: Modern Rural England: Edward Thomas “Adelstrop”, “At the Team’s Head Brass.” [discussion exercises]
- 4: The Modernist City: T.S. Eliot, “The Fire Sermon” from The Waste Land [discussion]
- 5: The Provinces: Louis MacNeice, “Birmingham”; John Betjamen, “Slough” [discussion; first writing assignment due]
- 6: The Political Landscape: W.H. Auden, “The Watershed”, “From scars where kestrels hover.” [discussion exercises]
- 7: Modern Pastoral: Dylan Thomas, “Fern Hill”, “Poem in October.” [discussion]
- 8: Postwar England: Philip Larkin, “The Whitsun Weddings.” [in-class writing exercise]
- 9: “Deep England”: Ted Hughes, “Pike”, “Horses.” [discussion]
- 10: Mythical England: Geoffrey Hill, Mercian Hymns (extracts) [discussion]
- 11: Wild Places: Sylvia Plath, “Wuthering Heights,” “Sheep in Fog”; Kathleen Jamie, “The Stags.” [discussion]
- 12: The Postwar City: Roy Fisher, extract from City; Douglas Dunn, “A Removal from Terry Street”; Simon Armitage, “A Vision.” [discussion]
- 13: The Border: Seamus Heaney, “Bogland”, “North.” [writing assignment due]
- 14: Contemporary Eco-Poetry: Alice Oswald, Dart (extracts) [discussion & group presentations]
- 15: Group Presentations to Class on any poem from the textbook [final writing assignment due week 16]

6. 成績評価方法：

Mid-term writing assignment 25%; Final writing assignments: 25%; Reaction paper 25%; Group Presentation 25%.

7. 教科書および参考書：

Owen Sheers, editor. A Poet's Guide to Britain (Penguin, 2010). Some of the poems will be provided as photocopies.

Several of these poems are also in Poetry in English: An Anthology, edited by M.L. Rosenthal (Oxford UP, 1987).

8. 授業時間外学習:

Three writing assignments; regular group discussion exercises; group presentation on one poem chosen from the textbook.

9. その他: なし